

草の根技術協力（パートナー型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	スリランカ国
2. 案件名	環境にやさしい紅茶づくり支援事業—小規模茶農家による有機栽培の生産性向上—
3. 事業の背景と必要性	スリランカ経済において紅茶は主要な輸出産品であり、主な輸出先の欧米における有機紅茶の需要は高いが、スリランカ国内の有機紅茶の生産量は輸出需要を充足できていない。小規模茶農家は有機栽培の知識や技術が不足しており、生産性と品質の向上は国レベルでの課題である。本事業は、小規模茶農家開発局（Tea Small Holdings Development Authority : TSHDA）と協働して、有機堆肥製造および有機紅茶栽培の技術支援を行うことにより、紅茶の高品質・高価格化を図り、小規模茶農家の所得向上を目指すものである。
4. プロジェクト目標	デニヤヤ地域の5村で小規模茶農家による有機茶栽培のモデルが確立され、同地域で有機栽培が広がる。
5. 対象地域	南部州マータラ県コタボラ郡デニヤヤ地域の5村（キリウエラガマ村、キリウエラドラ村、バタヤヤ村、北パッレガマ村、南パッレガマ村）
6. 受益者層 （ターゲットグループ）	直接受益者：デニヤヤ地域の5村で有機転換を実施する小規模茶農家 340 世帯 間接受益者：デニヤヤ地域の小規模茶農家 1,380 世帯
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> モデル農家が圃場をすべて有機に転換している モデル農家の収入が向上する デニヤヤ地域で新たに有機栽培に取り組む農家が増える <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 エクサメンバー(小規模茶農家グループ)のうち、50 世帯をモデル農家として選定 1-2 日本から堆肥専門家を派遣し、堆肥作りと施肥を指導 1-3 圃場の改善計画と有機転換計画を作成 1-4 計画に沿って圃場改善 1-5 計画に沿って非有機圃場を有機転換 2-1 摘採の技術改善、茶葉の出荷までの適切な保管方法を指導 2-2 有機茶葉を有機紅茶加工工場に出荷 2-3 果樹、スパイスなどを有機転換圃場に混植 2-4 茶以外の有機農産物の販売を拡大 3-1 モデル農家が地域の農家を対象に有機圃場見学会を実施 3-2 新たに有機転換を希望する農家を登録 3-3 新たに有機転換する農家を対象に堆肥作りと施肥の研修を実施 3-4 専門家が新たに有機転換に取り組む農家の圃場を視察し、転換計画を作成 3-5 新たに有機転換に取り組む農家が計画に沿って圃場を有機転換
8. 実施期間	2024年6月～2029年5月（5年）
9. 事業費概算額	96,892 千円
10. 相手国側実施機関 （カウンターパート）	相手国政府関係機関：スリランカ政府プランテーション省 カウンターパート機関：プランテーション省小規模茶農家開発局・紅茶研究所
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	特定非営利活動法人パルシック
2. 主な活動内容	緊急支援事業、復興支援事業、経済自立支援、フェアトレードを主事業とする。スリランカでは、2011 年よりスリランカ南部デニヤヤで紅茶の有機転換事業を開始、小規模茶農家グループ「エクサ」の結成・拡大、有機認証取得、有機紅茶の日本への輸出等を行う。